令和 6 年 10 月 10 日

日本畜産学会第 132 回大会　若手奨励・男女共同参画推進委員会
ランチョンセミナー開催報告

日　　時：2024 年 9 月 18 日（水） 11:45～12:45
場　　所：京都大学・W214（第 III 会場）

「畜産のお仕事って何だろう」
タイトル 1：「畜産行政のお仕事とライフワークバランスについて」
講師 1：新　小春　先生　（農林水産省）
タイトル 2：「畜産の研究を仕事にすることについて」
講師 2：荒川　愛作　先生　（農研機構）
参 加 費：無料
参加者数：76 名（事前申込者 56 名、委員 14 名、当日参加者 6 名）

内容：

今回は「畜産のお仕事」をテーマに、農林水産省と農研機構の 2 つの職場から、仕事内容の紹介や育児と仕事の両立などをお話しいただきました。

若手奨励・男女共同参画推進委員会の江草委員長（日本獣医生命科学大学）のご挨拶の後、まず農林水産省の新さんよりご講演いただきました。自己紹介と農林水産省のご紹介から始まり、ご自身の職場である畜産局の業務内容、これまでのキャリアパス、自分のこれまでを振り返ったときの私的な変化や、農水で利用できる子育て支援制度について、またどのように 1 日の時間をやりくりして仕事と育児を両立しているかなどをお話しされました。内容は自らの実体験をもとにされているため非常に具体的で、学生の皆さんにとってはもし農水省に就職したらこのような生活を送るんだ、というイメージが大変つかみやすかったことと思います。続いて、農研機構の荒川さんよりご講演いただきました。荒川さんも新さんと同じような流れで、農研機構での業務内容やご自身のキャリアパス、1 日のスケジュールなどをお話しされました。荒川さんは小さいお子さんを連れてのフランス留学という貴重な体験をされているため、留学を考えているけれど育児と両立できるのだろうか、という気持ちを抱いている学生や若手の方々には、特に参考になったのではないかと思います。

今回のランチョンセミナーでは事前申込みの半分近くが学生の方であったということで、「畜産のお仕事」に対する興味の強さがうかがえました。そのような参加者の皆さんに、仕事と育児についてリアルな声をお届けできたことは、大変有意義であったと思います。また今回はセミナー前後に 30 分以上の時間が確保されていたため、準備や撤収を落ち着いて行うことができました。セミナーに関するアンケートは 38 名の方から回答を得ることができ、満足度の平均は 5 点満点中 4.4 点でした。アンケート結果の詳細については別紙として添付します。

最後に、今回のセミナーの運営にご協力を賜った皆様に皆様に深謝いたします。ありがとうございました。以下の写真は帯広畜産大学の口田先生が撮影してくださったものです。

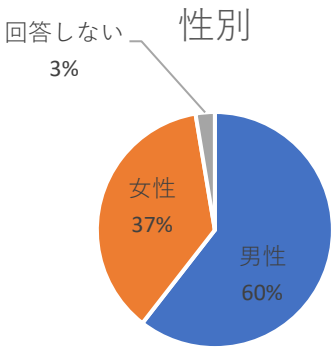
世話人：荒川　愛作（農研機構）・西浦　明子（農研機構）

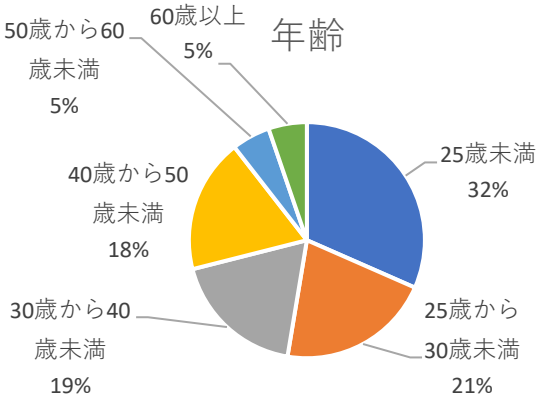
挨拶される江草委員長

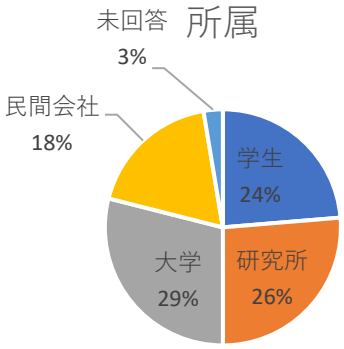
演者のお二方（左：新さん、右：荒川さん）

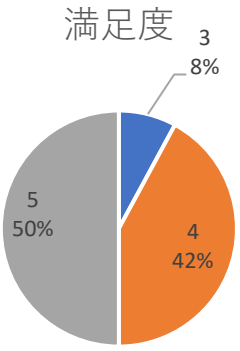
会場風景とお弁当

添付資料：アンケート結果









満足度の理由

- 具体的な仕事内容の紹介
- 生の声が聞けるいい機会でした。
- あまり知らなかった農林水産省の仕事について詳しく知れたから
- とてもわかりやすく、今後のキャリアを考えていく上で参考にしたい点がたくさんあったから
- 自分も来年から畜産職員になるので興味がありました。
- 畜産関連の国家公務員への就職考えていたため、具体的に想像することができた
- 他の部署の制度や、仕事内容が分かったので。
- 農水省の仕事のお話はとてもわかりやすく、上手く紹介されていた。
- リアルな生活スタイルを交えてお話いただけたので共感を持てました。
- 農研機構について知れたことは大きかった
- 貴重な話を聞けてよかった。ライフワークバランスと言う言葉がささった
- 普段知ることのない農林水産省・研究所の働き方を知ることが出来て良かったです
- サイトで調べるだけでは得られない業務内容を詳しく知ることができたから。
- 農林水産省や農研機構のあまり身近ではない職場の働き方を知れて良かった。
- ライフワークバランスについて参考になった
- ワーク・ライフどちらの話も十分に聞かせていただきありがとうございました。大変ためになりました。お二方とも働きやすく楽しそうな職場だと感じました。
- 農水や農研機構におけるキャリアパスの例を知ることができました。学生を指導する際の参考になりました。
- 私生活と仕事のバランスの振り分けの実態がよくわかった
- 普段聞く機会が少ない農林水産省や農研機構について知ることができたから
- 学生(学部生)という立場により、社会人や研究職の方々と深い関わりを持つことがないため、今回のような個人の生活も含めた詳しい内容を聞けて良い経験となりましたため、4 点としました。
- 1 日の生活時間の変化を具体的に知ることが出来て参加になりました。
- 身内でしたが改めて知ることも多かったです。
- 農水省のかたの話が聞きたかった
- 具体的な私生活（ライフ）を伝えていただいたこと
- 行政と研究所それぞれで働かれており、育児などを経験されている方々のお話を聴くことができ、これからの自身のキャリアを考えるきっかけになったからです。
- 国の畜産行政や組織など、また職員（農研機構）の生活パターンまで説明され、よく理解できました。
- 農林水産省での仕事内容や仕事のし方が具体的に示されていて、よく理解できました。話をきくまでは分からないことが多かったので、参加してとてもよかったです。